

## 地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念の共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、その理念を目に付く所に張ることで職員の意識を高めている。	○	独自の理念はあるがそれに限らず常に向上を目指し今後も適切な理念を越えていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有している日常の中で常に意識して援助する。理念に基づくのんびり生活できるよう支援する。	○	理念に基づく業務を他のスタッフ一同共有できるよう月々一度の話し合いを持ち、築き上げて行くようにする
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	本人や家族の思いを実施提供出来る支援を心がけ家族の方々が安心してただけるケアの実施をしている。家族の面会の時などに現状を報告し月に一度のお便りで対応している。	○	今後とも運営推進委員会を通して地域の方や家族により多く理解していただけるよう取り組みたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	1週間に2回ほど地域の推進チームの来所により日々のレクリエーションに参加して頂くなど気軽に立ち寄れる雰囲気づくりをしている。	○	これからも地域の方々と交流して行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会、ボランティア、小学校の方々の来所により交流を計っている。	○	現状通り地域の方々と交流すると共に回数を増やして行けるように計画して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会の中で常に利用者の立場を立ちサービス提供出来る話し合いを行っている。	○	当事業所ならではの役割、地域高齢者の支援など話会い今以上に支援して行きたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に会議を開き、不備な点、改善すべき点を常に話会い情報交換を行っている。	○	今まで通り会議や話し合いを行って行き、改善に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で利用者やホームの現状評価についての報告をし話し合いを行っている。又参加者や意見要望についても話し合いを行いサービスに活かす努力をしている。	○	今後も意見、アドバイスを真摯に受け止めサービス向上に努めて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の中にキーパーソンがいなく一人暮らしをしていた。高齢福祉課に連携をとり改善策について相談している。	○	市の担当者との話合いの機会を持ちながら指導、アドバイスを受ける事がサービス向上にもつながると思うので実施して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	上記に対して申請中である。	○	研修参加、市への相談
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に丁寧な言葉かけをしている。自由な行動をさえぎらない事故防止対策を中心に対応している。	○	勉強会を行ったり、研修会等に参加して行きたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明を利用し丁寧に判りやすく説明している。疑問点など個室を利用し、十分に時間を作り納得されるまで説明し、理解されるまで答える事で納得した上での契約をしている。	○	現状通り、家族の理解をも求める契約を目指す。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との関わりの中で不満や困ってこと等を10:00のお茶の時間に聞きとりをし、早急に職員での話し合いを持ち問題解決をして安心してもらえる環境づくりをしている。	○	今後も利用者の言葉に耳を傾けて苦情処理をしていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時、月一度の家族へのお便りなど近況報告をし事業所の対応もあわせて報告している。	○	現状通り続けていきたい。その際家族の要望など聴くように努める。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会、電話等での苦情を常に受け止める体制を設け話しやすい雰囲気を作り職員間で苦情処理に上げ話あっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行い意見や提案を出し合い、管理者ケアマネジャーを中心に活動している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	配置定数を基本に非常勤1を配置1ヶ月間の予定に関して配分し通院介助、レクリエーションなど柔軟な対応が出来るよう職員配置をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>安心信頼を構築する関係を維持する為にやむをえず移動の際、馴染みの併設のデイサービスの職員の移動となる事もある。</p>	<p>○</p> <p>施設の特徴を有効に活かす人員配置と本人の職能要望を確認して配置転換、目的に対応したスタッフ配置</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症実践者研修を受け定期的に職場研修を行い、ケアのあり方などの勉強会をしている。</p>	<p>○</p> <p>研修を重ね業務に還元できるようにスキルアップを目指して行く。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム研修会に参加し得たことを事業所内での研修資料として勉強会を実施し向上に繋げている。</p>	<p>○</p> <p>交流を図り意見交換を行って行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事上での相談が気軽に出来るように相談をうける職員を配置して業務がスムーズに行えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員同士が話しやすくストレスが軽減するような職場作りをする。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>朝・夕のミーティングでの職員の意見を聞くことで個々の状態を把握している。管理者が必要があれば直接運営者と話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員の素直な意見が聞けるよう関わりを持つ機会を設けて行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には思いを伝える事をし、本人が不快なく日が過ごせるよう話しやすい雰囲気作りをする。	○	今後も相談者には面接する時間を設け問題解決に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面会の場と時間十分に設け家族の思いを受け止め不安を抱かせないよう十分に説明するようにしている。	○	家族の求めるケアの内容や希望を聴き又それを実施するために現場の職員の意見などお互いに理解を深める努力
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を把握し他事業所のサービスも含めた地域包括支援センター、介護支援専門委員に協力を求める。	○	その状況に応じたサービス内容を紹介していく必要があれば他事業所を紹介したり市への相談を持ちかけ対応する。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用したりして、交流を図り徐々に馴れ親しんで頂きスタッフとの信頼関係を築き本人が納得した上での入所を進める。	○	家族と本人の思いを十分に汲み取った上でサービスを開始出来る様、常に努めて行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは常に利用者と共に食事をとったりお茶を一緒にする事で利用者の気持ちを理解できる。	○	現状通り互いに空間に共有し馴染みの関係を続けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子定期的に家族に連絡し連携を計っている。	○	常に連絡体制を整え連携を図っていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時には、本人の様子を知らせたり定期的に文書にて近況報告を行っている。	○	現状通り利用者と家族がより良い関係が持てるようスタッフが間に入り支援して行く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の在宅で愛用していた物など居室に持ってきたり今まで利用していた馴染みの美容室、スーパー病院などの継続利用	○	自宅や昔していた事がホーム内でも出来る様一つひとつ考えて行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士それぞれの性格や今までの環境の違いから利用者同士の間に職員が入る事で解決している。	○	今後もお互い気楽に生活が出来る様に職員が未然に問題解決するように心がけて行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	外出先で偶然会ったりすると会話をしたり励ましの言葉をいただけたりする。又退所した利用者には手紙を書いている。	○	関係を断ち切らない付き合いを大切にしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いと一緒ににお茶を飲んだり食事 中の会話の中で本人の思いを聞くようにしてい る。	○  本人が望む生活を支援するために十分に思いを聞 き入れ叶えてあげる事が望ましい事だと思う。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている	今まで出来た事をグループホームに入所する事で 今までの環境を変える事なく生活できるようにし ている。	○  今まで通り一人ひとりが安心して暮らしていける ように支援する。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状 態、有する力等の現状を総合的に把握する ように努めている	一人一人の生活リズムや心身の状態の把握をし 個々の援助計画を行っている。	○  スタッフ一人ひとりが同じケアを行って行き利用 者が安心出来るよう支援して行く。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時には必ず会議を行っておりニー ズを明確にしている。家族や本人にも希望を聞き 計画に取り組んでいる。	○  本人がより良く暮らし又、家族が安心出来るよう な計画を立てそれをスタッフ間で共有しケアに繋 げて行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している	ミーティングを行い、計画内容に不備が無いか確 認している。又何か不備な点や計画内容の変更時 には必ずスタッフ間の会議を開き見直し、職員、 家族が話し合い早急に解決できるようにしてい る。	○  今後もミーティングや、スタッフ間の話し合いを 十分に行い本人本位の援助をして行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々申し送りを共有し援助できるようにしている。	○	今後も情報を共有し介護計画の見直しに反映させていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、買物、花見、ドライブなど季節に応じた行事を行っている。	○	今後も本人、ご家族の要望に応じた援助を行っていけるよう努めて行く。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域での催し物に参加したりボランティア訪問、小学生との交流、避難訓練など参加を行っている。	○	本人の意向に応じた援助を行って行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	週3回のデイケアを利用している利用者があるためデイケアの職員と情報交換をしている。	○	利用者一人ひとりの状況に応じた
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在利用者権利擁護を利用していないが成年後見制度を活用する為申請中である。必要な時には包括支援センターの協力を得ている。	○	利用者一人ひとりの状況に応じた



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の医療機関との関わりは本人、家族の意向を基に定期的な受けられる様支援している。	○ 利用者一人ひとりの状況に応じて今後も他事業所のケアマネジャーやスタッフと情報交換をして行く。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医を受診し職員が日常の様子を報告し必要に応じて専門医の指示を仰ぐ。	○ 専門医との連絡をおりながら認知症の利用者を支援して行く必要な時には医師の指示を仰ぐなどし連絡を取る。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護師と常に情報交換をし24時間体制で常に連絡を取れるようにしている。又毎日利用者の健康状態を報告している。	○ 看護師が迅速な処置、対応ができる様に常に正確な日頃の健康管理を把握してきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に見舞いに行き状態を把握担当看護師、ソーシャルワーカー情報交換し本人が安心して退院できるような体制をする。	○ 今後も必要に応じた対応がスムーズに行えるよう日頃より連携を計って行きたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合ホーム内でケア出来る事には限界があるため事前に家族に医療が必要であることを話しグループでの看取りも伝えるなどの話し合いも行っている。	○ 終末期ケア、看取りのケアまでできればと思う
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ない事を家族と話し合い、要介護度の重度化、終末期ケアのチーム支援体制はこれから構築する段階である。	○ 重度化した要介護度の高い本人をいかに安全に日々のケアを実践して行く上でケア内容を見直しリスク面の改善をして行く事が出来る様にした

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と連携を取りながら、本人に不安を与えないように個別に話し合いの場を設け、じっくりと話し合いこれからの生活について十分理解できるように話し合う。	○	今後も住み替え後のダメージを少なくする為にも話し合いや説明をして行きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの尊厳は守られている。	○	今後も研修等への参加等行い職員の質の向上に努めて行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日のお茶の時間を利用し本人の希望、要望を聞き取る機会を利用し納得のいく支援をする。	○	今後も密に利用者に関わり思いを傾聴し援助内容に取り入れて行く配慮を行う。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が今どうしたいのかを最優先し無理強いをしない。自分で表現できない人にはその人の立場に立って考えるように努めている。	○	利用者のペースに添った利用者一人ひとりの自分らしい暮らしを支援して行きたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いきつけの美容院、理髪店に案内する援助を行っている。馴染みのお店に職員と一緒に行き衣類など購入する援助を行っている。	○	今後も継続して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話より利用者の好みの食事を提供している。調理時は利用者と一緒にやっている。	○ 今後も利用者の希望に沿って提供して行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間は本人の好みに応じた物を提供、誕生日や日常的に要望があればお酒を提供している。	○ 出来るだけ健康に留意して家庭的な食事を提供を志して行きたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人一人ひとりに合わせた排泄パターンを職員が理解し排泄誘導を行っている。	○ 個々の状況に応じた排泄パターンの確立を目指す
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調不良など変調がなかぎりほぼ毎日午後からの入浴を提供している。希望により午前入浴も実施している。	○ 今後も利用者の希望に沿って提供して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間に合わせ日中でも休息が取れるように支援している。	○ 今後も一人ひとりの生活習慣や状況を把握し安心して休めるよう支援して行く。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のお茶の時間に一人ひとりの要望を聞き入れながらレクリエーションや調理などの支援を行っている。	○ 一人ひとりの生活歴を考えて個別の援助を充実させて行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買物に行った時に自分で支払ってもらったり、訪問販売のパン屋さんが来た時自分で支払いが出来る様に支援している。	○	今後も希望に応じて買物が出来る様に援助して行きたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃より要望を聞き買物に出たりドライブに誘ったり施設で育った野菜を畑に収穫に行く。	○	今後も日常的に本人の意思のもと自由な戸外活動を支援する
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅での外泊、家族との外出する機会を設けている。	○	本人、家族の希望を取り入れ今後も外出する支援をして行きたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くと言う事は困難である。レクリエーションの中では回想療法の一環で文章を書くプログラムを取り入れている。短歌、俳句などの作品作りをしている。	○	電話など現況では本人の申し出や家族からの電話はスムーズに対応出来ている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に家族の訪問、知人の面会などがある。居室の空間で落ち着いて話せる環境にある。食事も状況によっては一緒に出来る様に対応出来ている。	○	いつでも気軽に訪問してもらえよう様な雰囲気作りをしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な拘束は無い	○	今後も身体拘束は行わない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事は無い	○ 今後も鍵は掛けない
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は連携し利用者の所在確認や様子の把握に努めている。転倒や事故発生にも十分に配慮している。	○ 今後も利用者が安全に生活できるように支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分できちんと管理できる利用者には自己管理を促すが、状況的に自己管理が難しい利用者は職員が管理する援助を行っている。	○ 利用者一人ひとりに見合った自己管理能力を活かし対応して行く。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人ひとりがヒヤリハットを掲げ利用者一人ひとりの介護計画に基づいて行っている。	○ 一人ひとりの状況にあった援助を行う事と会議や勉強会にて職員の質の向上を目指したい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には実施していないが、事故発生時の対策マニュアルはいつも目につく所に置き瞬時の対応が即座に出来るようにしている。	○ 今後は応急処置などの訓練を全スタッフで取り組む為の実務研修を行う事が必要である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会を通して地域の方や行政などに協力を依頼している。	○ 今後も推進委員会などの呼びかけを続けて行き利用者を安全に避難させる訓練を行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	今出来る事を活かすケアプランの中にも発生するリスクの重さがある事を家族には常に報告し説明している。	○	規制するすることなく有意義な残存機能を活かすケアを実施リスクを常に念頭に置いて行く。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と午後のバイタルチェックで体調の変化をチェック確認する、異変に気付いた時には直ちに看護師に報告し指示のもと対応している	○	早期発見、早期対応に努める
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行い直接手渡し服薬の確認を行っている。又内服薬の変更の際、申し送り等を利用し常に職員が理解している。	○	今後も職員が内服薬の管理をし確実に服薬する援助を行う。内服薬についての知識をスタッフスタッフ一人ひとりが認識できるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	バランスの取れた食事を提供し便秘予防に努めている又排泄のチェックを毎日行っている。	○	記入が曖昧にならないように全スタッフが責任を持って排便確認を行って行く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	常に食後の口腔ケアは職員が援助し口腔内の清潔は保たれている。	○	現状通り口腔ケアを毎食後行っている。年に一度は歯科受診をし口腔ケアの検診を行って行く。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事に350cc以上は摂れるように援助している。	○	過剰な食物摂取を予防し水分補給など一人ひとりに応じたケアを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出後、手洗い、うがいを徹底して行っている。	○	勉強会の実施、研修会参加、マニュアルを解説し症状の把握の徹底を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の買いだめはせず新鮮な食材を提供し、調理器具、まな板、ふきん類は毎日ハイターで消毒乾燥している。	○	勉強会の実施、研修会参加、手洗い、消毒の徹底を行う。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には季節の花々を植栽し玄関を開け誰でも入って来れる環境作りをしている。	○	地域の方かたにも気軽に訪問を受け入れる心使いを持って行く事。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔、整理、整頓を心がけている。週に1度の生花を行い居室に飾るなど和やかな雰囲気の中でくつろいでもらえるように援助している。	○	空間スペースを確保できるように工夫して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有する居間でのテーブルに座る場所は決まっているが、ソファで互いにくつろげるような間取りになっている。	○	昔から馴染んだ品物を置くなど生活的な環境を作って行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある品を飾るなど出 来るだけ自宅と近い環境作りを心がけている。	○ 今後も本人の馴染みの品を居室に置き居心地の良 い環境作りを行って行く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう よう換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調管理や空気の排気などは日頃から実施特に空 調に関しては本人の意思確認を行っている。	○ 身体に優しい配慮を心ざす。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーを設計、手すりも設 置されており、入居者が安全に暮らしていけるよ うな環境が保たれている。	○ 安全に生活できるように援助していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりの状態を把握しレベルに応じたケアを 行っていく。	○ 出来る事は自分で行ってもらい、出来ないことを 援助する体制を整える。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	周辺が田んぼ、畑などに囲まれ恵まれた環境の中 にある。又外気浴や散歩などで四季の自然を感じ る事が出来る為に季節の変化など日々感じられ る。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)